

農作物生育・技術情報9号

日高農業改良普及センター日高西部支所

JAびらとり JA門別町

1 水 稲

(1) 収穫作業について

ア 9月1日以降の降雨を受け、なびき・倒伏が増えています。品質を落とさないよう作業は計画的にすすめましょう。

イ ほ場に水が停滞している場合は、水田を傷めないよう急旋回を避けましょう。

ウ 倒伏した稲は、追い刈りでコンバインの速度を落とし、丁寧に刈りましょう。

(2) 乾燥・調製について

ア 胴割れ米の発生を防ぐため急激な乾燥は避け、二段乾燥や熱風温度を下げてゆっくり乾燥させましょう。

(3) 収穫後の透排水性改善、稲わら処理について

ア 走行軌跡に水がたまるほ場は溝掘りなど排水対策を行い、乾燥を促しましょう。

イ 秋起こしは水田の乾燥状態を確認してから行いましょう。

ウ 本年度ワキが発生したほ場は稲わらを搬出し、次年度に備えましょう。

2 主要野菜

作物名	生育状況	技術対策
トマト (夏秋どり)	・ 6～7段収穫中 ・ 空洞果、裂果、つやなし果の発生が見られる ・ すすかび病、灰色かび病、うどんこ病の発生が見られる ・ トマトキバガによる食害が見られる	・ 果実に結露が発生させないように、日の出後のハウスは少しずつ開放する ・ 摘葉で通気性をよくする ・ 害虫・病害は初期防除を徹底する
ハウス軟白ねぎ	・ 5～6月定植作型を収穫中	・ 収穫終了後はもみ殻を搬出する
アスパラガス (ハウス立茎)	・ 斑点病の発生が見られる	・ 斑点病防除は9月中までを目安に行う ・ 収穫終了後にもかん水を行い、自然に枯れ上がるようハウスを開放し外気にあて養分転流を促す
きゅうり	・ 下位節の孫づるを収穫中 ・ 一部でうどんこ病、べと病の発生が見られる	・ 古い葉は取り除き、通気性と日当たりをよくする ・ 病害虫は発生初期に防除を行う
いちご	・ 収穫中	・ 不要な花房・花蕾を除去し、成り疲れによる草勢低下を防ぐ

3 畑 作 ～豆類の収穫～

雑草（イヌ材ズキ、イヌアザミ、ツユクサ等）や大豆わい化病株がほ場に残っていると汚粒の発生原因となるため、事前に抜き取りを行い収穫に備えましょう。

○小豆

収穫適期の目安は熟莢率（品種固有の莢色になり振ると音がする成熟莢の割合）で判断します。機械収穫では熟莢率が100%以降で、子実水分が16～18%の範囲の時期に収穫しましょう。

○大豆

収穫適期は子実水分20%以下（最適16%以下）、茎水分55%以下です。地際の茎表面に“ぬめり”が無いのかも指で触って確認しましょう。収穫時期の遅れは裂莢による損失やしわ粒、しみ粒が発生しやすくなるため適期での収穫を心がけましょう。

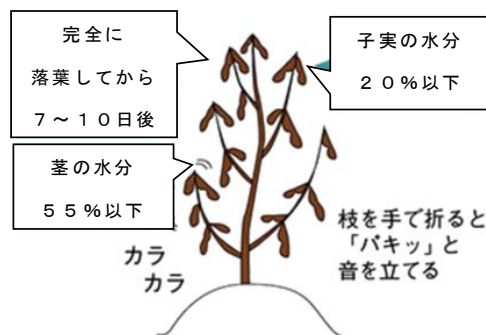


図1 大豆の収穫適期

4 畜 産 （9月15日現在 普及センター調査ほ）

○牧草（2番草） 収穫75%（作業 + 1日）

最終刈り取りは、刈り取り危険期（下行）の前に行いましょう。

アルファルファ 9下～10中、オーチャードグラス・ペレニアルライグラス 10中～10下

○サイレージ用とうもろこし 収穫35%、「黄熟期」90%・+8日

子実の状態を確認し、黄熟期以降で刈り取りましょう。

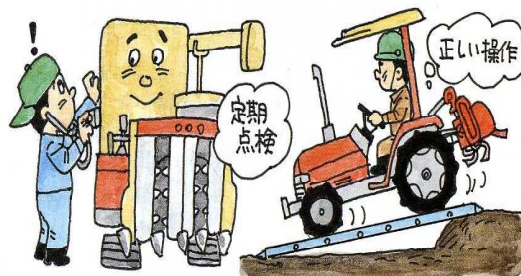
※R7収量調査結果

平取町・日高町（30筆調査） 6,869kg/10a（前年6,265kg、平年 6,307kg/10a）

5 秋の農作業安全運動期間です！

秋の繁忙期は収穫等の農作業が増えると共に、日没が早まり、作業中の事故が発生しやすくなります。

- 休憩の取れる無理のない作業
- 農作業や機械作業に適した服装
- 点検・整備は、必ずエンジンを停止させる
- 油断せず、後方確認、足下注意
- 農道の走行時は、路肩の状況を確認



事故のない収穫の秋を迎えましょう！